

商品事故削減の取り組み

2019年度比50%削減を目指して

2019年の実績

今年度の目標

【事故件数 282件以下 事故金額 ￥3502419 以下】

2019年度の実績

トータル事故件数 564件 トータル事故金額 ￥7004839

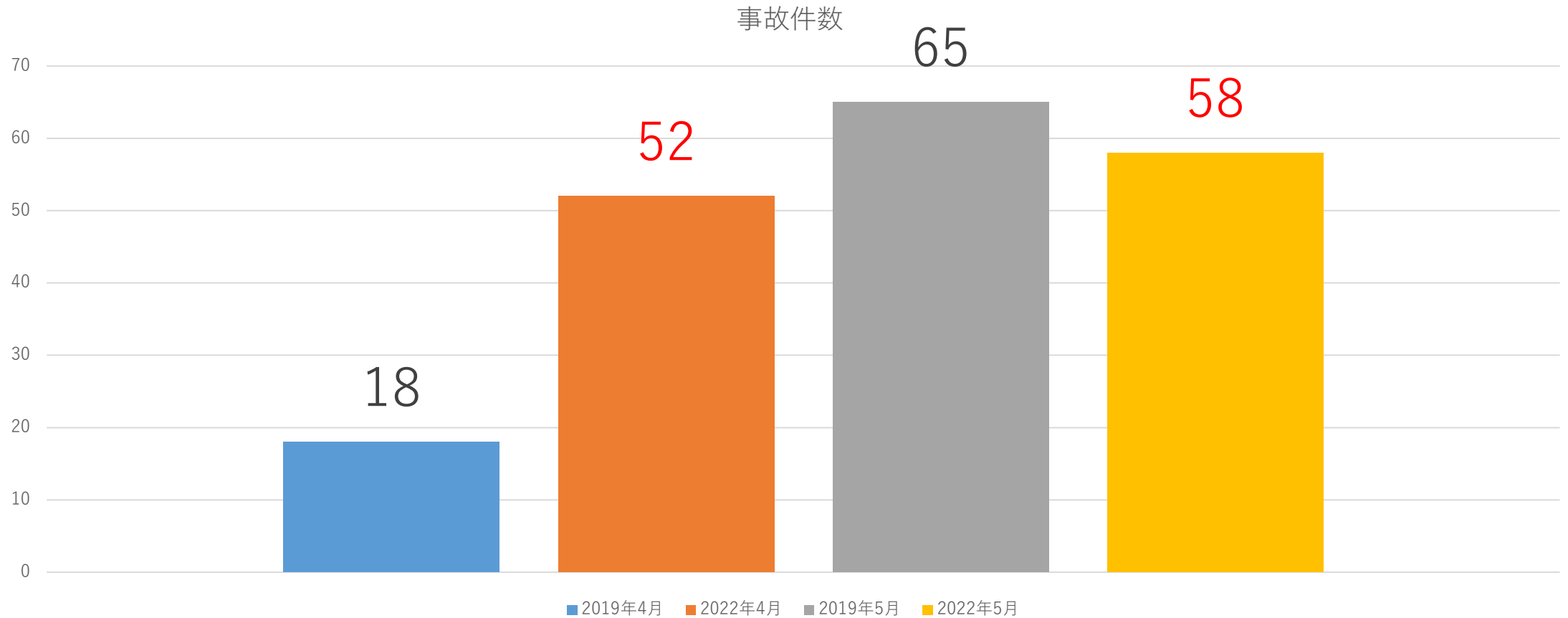
2019年4月の実績

事故件数 18件 事故金額 ￥641179

2019年5月の実績

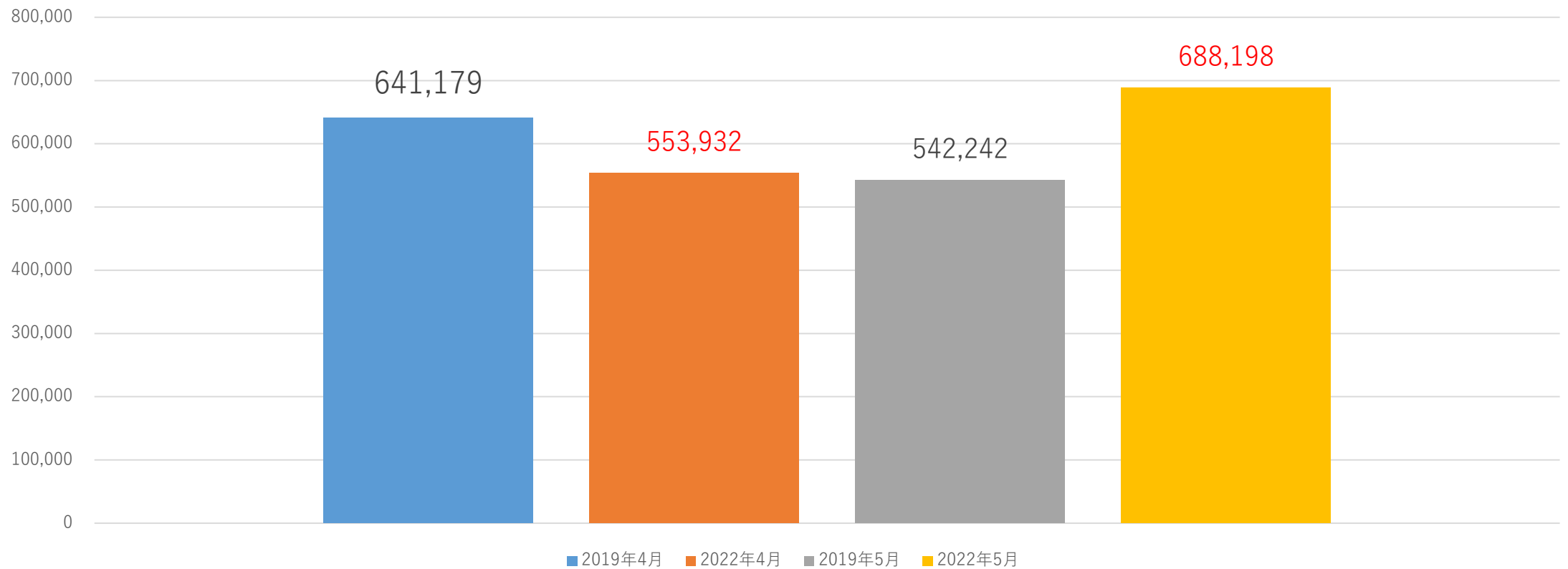
事故件数 65件 事故金額 ￥542242

2019年と2022年の比較（件数）



2019年と2022年の比較

事故金額



2022年度実績

2022年4月

事故件数	<u>52件</u>	2019年度比	<u>288%</u>	<u>188%増</u>
事故金額	<u>¥553932</u>	2019年度比	<u>86.3%</u>	<u>13.7%減</u>

2022年5月

事故件数	<u>58件</u>	2019年度比	<u>89%</u>	<u>11%減</u>
事故金額	<u>¥688198</u>	2019年度比	<u>127%</u>	<u>27%増</u>

すでに110件の事故が発生。2か月ですでに目標比に対して50%まで到達している。
金額においても30%位まで到達してしまっている。
50%削減どころか2019年度を上回る危機的状況。

昨年度の結果からの考察

到着事故

3割は特定の受人の事故（大木新東京物流）

残り**2割**前後は新郷のバース事故となっている。

今年もすでに**18件**大木新東京物流センターの事故が発生

また、新郷バースにおいても**12件**の事故が発生

発送事故

3割は特定荷主の**事故**が発生（CCI様）

残り**2割強**が特定荷主の事故（フクレックス様）

以上の結果より

特定の荷主、バースの事故を削減する事で2019年度と比較して**50%削減**に繋がる為

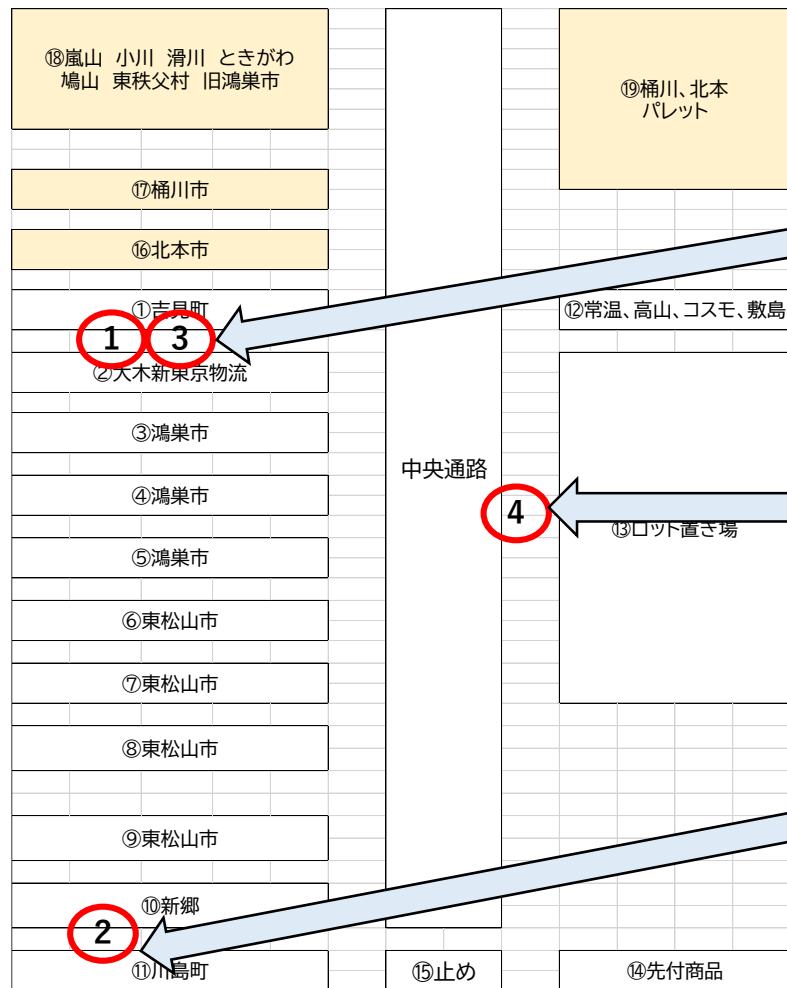
重点的に対策をしていく必要がある。

商品事故増加の原因として考えられる事

到着

- ① 狭いスペースでの作業が多い
- ② 特定バースでの継送業務による台車やリフトの接触
- ③ 保管スペースがうまく確保されず高積みや2段パレットから
はみ出して保管
- ④ 立ち合いがしっかり出来ていなくて、そもそも事故が発生
しているものを見逃している (立ち合い不足、現認もれ)

ホームマップを活用した原因の追究（到着）



到着物量の多い場所が隣接していて無理な**高積み**、**はみ出し**保管が多いまた、**通路の確保**も非常に厳しい状態になっている

夜中の**1時～朝方5時**位まで継送業務で**人手**をとられ立ち合いする人数も限られる上に**物量もピーク**の時間の為、**接触**や**立ち合い漏れ**が多い

夜中の**2時～3時**位の間に佐野行き**の継送業務**をホームの都合上この場所で行っている為、**リフト**や**台車**の往来が激しく**保管中の商品と接触**している

原因に対する対策（到着）

・①③に対する対策

大木新東京物流センターの商品を宵積みする事（台車保管にて3列ある）で保管スペースを拡張する事が出来、隣接している吉見バースの無理な高積みや商品同士の接触が防げるうえに通路の確保まで出来る。

・②に対する対策

新郷のバースのみ通常の守君を使用せず木製の守君を使用。また台車の取手による接触事故が多発しているので、守君の高さを110cmにする事で取手部分より高くなるので取手の接触が防げる。また、このバースのみ担当者を2人体制にして、常に巡回し守君を設置していく。

・④に対する対策

夜勤の休憩時間の見直しを行い、夜中の1時～3時の間は人手を確保し立ち合いを強化しつつ継送業務も行えるようにしていく。

また、時間の路線の時間の関係上、従来荷卸しさせない場所での荷卸しを何台も行っている為、多少の制限をかけるようにする。

商品事故増加の原因として考えられる事（発送）

発送

① C C I 様の事故

ビニール梱包の長尺物（4m）につき荷扱いが難しく少し擦れただけで返品になってしまう。また、大口集荷の為S C D 全員で仕分け作業をしている。事故に対する意識が低い者もいる為、荷扱いが雑になり事故が増加している。

② フレックス様の事故

大口の集荷であり（10 t ～ 20 t 前後）1個辺りの重量もそれなりにあるので荷扱いが適当になってしまう傾向がある。こちらも C C I 様と同様に全員で仕分け作業をしている為、商品事故が増加している。

また、大口集荷で時間もかかるので積み込み前より商品事故が発生していても出荷人様に声掛けせずに集荷してしまっている。

原因に対する対策（発送）

商品事故に対する意識付けが何よりも重要の為、CMと相談し
1番効果がありそうな可視化を実行。

- ①ドライバーが必ず通る動線状に掲示する
- ②事故写真には請求金額も記入
(実際にこれだけの請求がある事を知ってもらおう為)
- ③朝礼、点呼、ミーティング等でタイムリーな事故の情報を提供

可視化によるドライバーへの意識付け（発送）



控室のドアに掲示
他にもトイレのドアや点呼場
事務所入り口のドアに掲示



各バースの柱に掲示
積込み時、仕分け時に自然と目線
に入る高さに掲示

検証→改善

6月の商品事故削減の対策として実行し**1週間**ごとの**結果を検証**、改善の様子がなければ『**なぜ**』効果が表れなかったのかを**分析**し、新たな対策を考え**少しずつ良い**ので目標に近づけていく事が重要。
この繰り返しを行い、最終的には**目標を達成**していく。